



全国曹洞宗青年会

2008.1

No.140

特集 全曹青インフォメーション

# 平成19年度 秋期活動報告

# いま、あえて生死を

いのち  
～教育と宗教の対話に学ぶ～

日時：平成19年10月10日(水)、11日(木)

場所：島根県松江市 主管：いずも曹洞宗青年会

平成19年度禅文化学林(第30回中国曹洞宗青年会大会 併催)が、平成19年10月10日(水)、11日(木)の両日、島根県松江市で開催されました。

1日目は教育者・鳥山敏子氏と神仁師、そして本誌で「あまらずのダイアログ」を連載中の飯島恵道師の三者による鼎談で、教育と宗教、それぞれの立場から「生死(いのち)」を巡る対話を通して、その現状と課題をお話いただきました。

2日目は、その鼎談の内容を踏まえて、参加者自身が「生死(いのち)の現場」でどのように考え、行動するのかをグループワークで議論しました。

神在月 ※2 に交わされた「生死(いのち)の語らい」の2日間をレポートします。

※1 不老閣下御真筆

※2 古来より出雲地方では、10月は全国の神々が出雲の集い、語らいの場を持つと言われ、全国的には「神無月」だが、出雲地方だけは「神在月」と称している。



パネリスト

## 一日目 基調鼎談(抄録)

鳥山 敏子氏(東京賢治の学校 代表)  
神 仁 師(財団法人 全国青少年教化協議会 主幹)  
飯島 恵道師(長野県東昌寺 副住職)  
於 松江市「くにびきメッセ」



### 「繋がる生死」の自覚と実践を

神 鳥山さんは教職を退かれた後、子どもたちにとつて何が大切なかを考えられて宮沢賢治の思想とシュタイナーの教育を取り入れた学校を作られました。賢治は疲弊した農民のために科学と宗教を駆使した活動をした人ですが、その賢治と同じ考えを持っていたのがオーストリアの思想家ルドルフ・シュタイナーであるかと思えます。賢治の思想とシュタイナーの思想の共通点についてお話しただけですでしょうか。

鳥山 賢治もシュタイナーも子どもたちへの対応の仕方が、今の学校の中で行われている先生の対応と全く違います。社会に合わせた教育ではなく、子どもたち個人に合わせた教育を行っているのです。存在そのものに対する見方が違う点で、二人は共通しています。つまり、霊界からこの地上にあらわれ、人間になるための学びをしているというふうに考えているところです。

神 飯島さんは僧侶と同時に看護師でもあり保護師でもあります。教育と医療の間に橋を掛けつつ色々な活動をされています。飯島さんのこれまでの活動についてお聞かせ下さい。  
飯島 私は看護学生の実習の時、子どもの死に立ち会いました。親はその場に立ち会えず、お寺で育った自分ですが手を合わせて蘇生するのを祈ることができませんでした。医療に

は宗教は排除されていることを実感しました。科学優先の医療に疑問をいだきながらも、自分がそこで手を合わせられなかった現実直面したのです。そこで終末期医療に興味を持ちホスピス、ターミナルケアを学びました。現在は精神的な疼痛緩和、生老病死のトータルケアができるお寺を目指して活動しています。

神 現実的社会的子どもにも話題を移します。十代、二十代の自殺率が増え、不登校の生徒が文科省の発表で十三万人、引きこもりは百万人に達するといわれます。また、理由の分からない殺人など、かつてなかった子どもたちによる犯罪が増えています。これらの原因についてどの様にお考えでしょうか。

鳥山 親や大人たちが子どもにとつての正しい権威ある人間になっていないこと。子どもたちは小さい時に全存在をうつしとつていきますから、親や大人がよくないと云った方が良いかもしれません。子どもたちもまた、苦勞せずに物が手に入るためありがたみがなく、衝動的に行動する子どもたちが増えています。子どもから見ると親は尊敬できるような行動をすべきです。そして、言葉は動きに繋がっています。正しく感情を使い、手足を使うことで気の流れが正され治癒されるのです。小さい時は頭を使い過ぎてはいけません。潜在意識に語りかけ生命力があれば自分なりの考えができるようになります。

飯島 自殺の低年齢化は十代、二十代の自尊



神仁

勸全国青少年教化協議会主幹。NPO活動やボランティアをキーワードに社会とつながる公益性の高い寺院のあり方について広く提案。著書『仏教教育の実践』『せとぎわの仏教』ほか多数。



鳥山 敏子

香川大学教育学部卒。30年間公立小学校で教壇に立ち、生徒と鶏を解体して食べる屠畜体験の授業など、次々と革新的な授業を展開。1994年、教職を辞して、親子のこころとからだのワークショップ活動を展開。1997年から、東京都立川市でシュタイナー教育や宮沢賢治の教育思想を実践する全日制自主学校「東京賢治の学校」を主宰。著書『いのちに触れる』（太郎治郎社）・『子供の声が聞こえますか』（法研）ほか多数。



飯島 恵道

長野県松本市東昌寺副住職。看護師勤務の後、駒澤大学大学院仏教学専攻修士課程修了。『そうせい』において「あまみずのダイアログ」を連載中。

感情が減っているからのように思います。生  
 に対する積極的な姿勢が教えられていま  
 せん。お釈迦様が「天上天下唯我独尊」とい  
 わるように、自分を大切にしなければなら  
 ません。そして、朝早く起きて夜はきちんと寝  
 るという人として当たり前前の生活をすれば犯罪  
 は減ると思います。

**神** 次に教育についてですが、宗教は公教育  
 で教えるものではなく、地域社会の中で教  
 えるべきだと思います。偏った宗教教育をさ  
 れると非常に危険です。心の問題は行政が立  
 ち入ってはいけないというのが教育基本法に  
 あります。このことに関してどう思われますか。

**鳥山** 宗教でないものは何があるのかと考  
 えるほど、自分にとって宗教は根本であり、ど  
 んなことでも宗教は外せません。一つの宗派  
 を押し付けなければよいと思います。思考と  
 感情と意思がバランスをとって育っていくよ  
 う、大いなる宇宙の中にあることをしつかり  
 と感じ取れる人間に育てなければなりません。

**神** 今日のテーマである生死についてです。  
**ターミナル**の現場から生死とは何でしょう  
**か**

**飯島** 生死とは表現的に抽象的です。具体的  
 に時間や物質の側面から生きていると実感す  
 べきです。生きていくということは繋がりがあ  
 っていくことです。ターミナルの現場は隔離され  
 手を尽くす手段のない人には比較的冷たい態  
 度に出ています。死の最後までケアする  
 ことが、生死に対する人としての関わり方です。

**鳥山** 子どもは大切にされないと生死を実感  
 できません。生死を実感できると自然を豊  
 か感じます。自然から過不足なく生死を実感  
 できます。単独の生死はなく関係性のない生  
 死は存在しません。生死の繋がりに気づいて  
 いけるのは、理屈よりもまず先に自分がたく  
 さんのおかげの中にあることを実感できる人

間になっっていることでしょうか。

**神** 一般社会ではかつて「キレル」子どもと  
 言われてきましたが、最近では大人たちも「キ  
 レ」てしまいます。子どもたちに生死の尊厳  
 を、自己肯定感がない中でどのように伝える  
 べきでしょうか。

**飯島** 本当の大人であれば「キレナイ」と思  
 います。自分を支えるのは最終的に自分です  
 ので、自分自身と切れるのは避けなければな  
 りません。自覚すれば繋がっていられます。  
 大人がそういう生き方をしていけば子どもも  
 習って育ちます。生きるというのは切れるの  
 ではなく繋がるといふことです。

**神** 今の社会では精神的に病んでいる方が非  
 常に多くなっています。生死の大切さを子ど  
 もに伝えるにはどうすべきでしょうか。若手  
 の僧侶は何かできるでしょうか。

**鳥山** 一人一人が自分の未熟な部分と、我が  
 子にはこの部分は受け継がせたくないことを  
 しつかり思考して、それに対して取り組んで  
 いく姿勢を子どもにもかくさず見せていくこ  
 とも大切なのかもしれません。

**神** 医療や教育は分野こそ違いますが、その  
 奥深くにある真理は共通していると思いま  
 す。現代社会の中で宗教は衣替えをすべきか  
 もしれません。

鼎談中に、携帯電話と連動したデジタル  
 カウンターで参加者の意識調査を行いました。  
 設問と結果は左記の通りです。（単位…人）

Q1 青少年の教育に宗教が必要  
 だと思ふ。  
 90 / 150

Q2 いのちの大切さを社会に伝え  
 るのが僧侶の役割だと思う。  
 78 / 150

Q3 実際にいのちの大切さを伝え  
 る活動をしている。  
 53 / 150

今、みなさんが  
社会や衆生に対して、一番  
伝えたいことは何ですか？  
そして、



## 参加者全員がパネリスト



## 二日目 グループワーク

於 松江市・ホテル一畑

### 「位相化する生死と伝道」を 徹底討論！

一日目の内容を踏まえて、二日目は参加者  
全員によるグループワークを行いました。  
提案された議題は三題。

- ①熊本市慈恵病院で設置された赤ちゃんポスト  
トについて、その是非や意義をどう思うか。
- ②富山県射水市民病院で起きた延命医療の中  
止をめぐる一連の経緯を踏まえ、自身が終末  
期に延命医療を受けたいと思うか。
- ③今のあなたが、社会や衆生に伝えたいこと、  
そして実際に伝えられることは何か。

一つのグループを八人前後で編成。参加者  
は議題ごとにグループを変えて、映像による  
議題提案を受けた後、それぞれに議論を交わ  
しました。その後、議論内容を全体で発表し、  
神師、飯島師が講評を述べられました。(鳥  
山氏は十日のみの参加)

最後に、飯島師は「生死」の原点は苦し  
みであり、それが仏教の原点です。僧侶とし  
て、苦しみの現場から逃げないでいただきたい  
と思います。逃げないことからすべてが始  
まります」と述べられ、神師は「世代を超え  
てお寺に来ていただく働きかけ、色々な方が  
たの心の受け皿になり、苦楽に寄り添うこと  
をお願いしたいと思います。そのためには、  
何事も我が身に引きかえていく、「同事行」を  
実践して下さい」と、それぞれに参加者への  
アドバイスとエールを送られました。



## 神在月の大結集、みなさんお疲れさまでした

### 平成十九年度 禅文化学林 第二十回中国曹洞宗青年会大会いずも大会

### 総括対談

そして、それぞれのフィールドへ

盛会のうちに幕を閉じた本年度の禅文化学林いずも大会。その総括として、主管したいずも曹青から、大会の企画運営をリードした千葉哲之師（大会実行委員長）と和田晶隆師（大会長／いずも曹青会長）のお二人に、大会全体を振り返っていたきました。

**千葉** この大会は、ある程度有名な方をお呼びして、その話をただ聞いて、という大会にはしたくない、というのが企画の立ち上げから実行委員会の総意としてありました。

**和田** そのために、参加者全員の見聞を聞いて反映する演出をこころがけましたね。それにはテレビの討論番組を参考にしました。

**千葉** 大会テーマの設定については、複数の企画案から、過去に脳死問題についての大会や緩和ケアの研修会を開催してきた、いずも曹青のこれまでの実績を踏襲したものを選びました。そして講師選定の過程で、鳥山先生がかつて行った「屠畜の授業」に行き着きました。

**和田** 神師と飯島師は、鳥山先

生と参加者を仲介していただくための人選でした。

**千葉** それにしても、「生命倫理」という大会テーマについては、約一年近くかけていずも曹青でも議論を重ねてきました。大会の直前になっても「落とし所」つまり何がしたいのか言いたいかというところが見えませんでした。そんな中、いずも曹青で行った事前研修で講師にお呼びした南直哉師（福井県霊泉寺住職）に、「生命倫理」というテーマ設定の曖昧さを指摘されました。対話というのは



左：和田大会長／右：千葉実行委員長

主体的な行為だから、その発言を裏付けるフィールドがないといけない。実は、葬送儀礼に深く関わっているが、僧侶それぞれに生命倫理についての共通認識がないし、そのフィールドもない。そのことを指摘されたわけです。

**和田** その意味では、特に二日目のグループワークの設問のポイントを、自分自身がどう思うかを問うたこと。どこまでが生でどこからが死か。それぞれ捉え方が違うことに気づくことで、また自分も変化していきまます。自分なりにどうやって命を表現し、フィールドを獲得していくのか。その幅広い選択肢を提供出来たのではないのでしょうか。

**千葉** 今回は、中曹青大会の主管が既定路線の上で、後から禅文化学林の併催が決定しました。内容自体は変更しませんでした。禅文化学林を併催したことで、特に演出や講師陣との折衝に予算を割けたことは大きかったですね。

**和田** それは、いずも曹青が全曹青との長年の関わりの中で、色々なノウハウや情報を蓄積していたことが大きかったと思います。

# 新年の御挨拶

第17期全国曹洞宗青年会 会長 芳村元悟



第17期全国曹洞宗青年会が、発足してから早半年が過ぎ、新しい年を迎えることとなりました。

手探りで始まりました私達の活動も、ようやくその形が見え始めたのではないかと感じているところであります。しかし、油断するとついつい勇み足となり、配慮に欠けた事態を招いてしまいます。新しい年の始まりを告げた今だからこそ、改めて初心に返り、自分たちが誰のために、何のために多くの汗をかかなければならないのかを問い質し、そして歩み始めたいと思っています。さまざまな事業を予定している中で、笑顔を忘れることなく、この1年を過ごすことが私達の目指すところでもあります。

これからも、皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



**Sousei**  
全国曹洞宗青年会

No.140 2008.1  
目次

- 02 全曹青インフォメーション 平成19年度秋期活動報告  
・平成19年度禅文化学林／第30回中国曹洞宗青年会大会  
いずも大会開催報告  
「いま、あえて生死を」— 教育と宗教の対話に学ぶ —  
・新年の御挨拶  
・平成19年度臨時評議員会報告  
・会長選考委員会報告  
・第32回曹洞宗青年会東北地方集会福島大会報告  
・曹洞ユース — 長崎県南部曹洞宗青年会 —  
・委員会コラム  
・青少年教化委員会紹介  
・賛助会員御芳名
- 16 菜食健美 典座寮お役立ちナビ③ — 『典座教訓』を実生活の知恵袋として —
- 17 そうとう衆列伝 — 大空玄虎 —
- 18 「禅」知識まんだら2 — 苦を考える —
- 20 あまみずのダイアログ 番外編 — 十方三世八百万に菩薩在り神在り —
- 21 寺族のテラス — 寺族ということば —
- 22 そうせいサロン
- 23 ネットで愉しむ禅籍サーフィン — 『禅林石庭秘伝』 —
- 24 曹洞宗のお袈裟に学ぶ(第4回) — 一休宗純の大掛絡 —
- 26 第40回全日本仏教徒会議神奈川大会報告

# 臨時評議員会開催報告

去る、平成十九年十一月二十六日(月)

午後二時より、曹洞宗檀信徒会館四階笑蓉の間に於いて、会員諸師約五十名の出席のもと、平成十九年度臨時評議員会が開催されました。第十七期副会長・中村嘉秀師の開会の辞に始まり、三歸礼文唱和の後、第十七期会長・芳村元悟師より挨拶が述べられました。その後、第十七期副会長・長井峰宗師が議長として選出され、迅速な議事進行により左記の議案が、それぞれ承認されました。最後に、第十七期副会長・久間泰弘師の開会の辞により、午後五時に無事閉会いたしました。

## 第一号議案〈各委員会経過報告〉

### 【総務委員会】

委員会開催報告。委員会頒布事業(花まつりキャンペーン等)の受注・発送業務及び管理の報告。各曹青会名簿の作成提出。平成十八年度各曹青会活動報告集をHP「般若」に掲載の報告。「曹洞宗報」「そうせい号外」入稿報告。委員会頒布事業(花まつりキャンペーン・ほとけさまの知恵袋等)の受注発送業務及び管理について。「曹洞宗報」「そうせい号外」入稿予定連絡。事務局会計の補佐について。評議委員名簿・案内状の管理・発送・出欠確認について。執行部・理事会へ事務局庶務補佐の出向について。

### 【広報委員会】

委員会開催報告。広報誌「そうせい」一三八・一三九号の発行実績報告。IT委員会との連携により、広報専用フォーラムにて編集業務遂行の報告。「そうせい」一四〇号(平成二十年一月五日)の発行予定連絡。各曹青会の活動を「全曹青インフォメーション」枠内に広く掲載する旨の連絡。各委員への責務軽減のため、編集作業工程の定型化の促進について。

### 【青少年教化委員会】

委員会開催報告。委員会企画第一回「お坊さんとふれあおう」(精進料理講座(於愛知高校)の開催報告。第二回精進料理講座十二月一日(土)開催予定連絡。平成二十年二月二十三日(土)「子どもたちの教育研究会LES(子ども達の周辺の社会問題を解決するべく学校関係者を中心とする会)」に参加決定の連絡。広報委員会・IT委員会との連携を計り、活動の報告の促進と需要の拡大の促進について。

### 【ボランティア委員会】

委員会開催報告。新潟県中越沖地震復興支援活動の課題点の報告。傾聴研修会の企画報告。災害発生時に関する全曹青と各都道府県曹青会の覚書(ガイドライン)の作成計画報告。

### 【法式委員会】

委員会開催報告。DIGI「そうせい」声明の手引き(仮称)の取材報告。新潟県で懺法・忉岐歎仏を取録予定。前期の「祈禱太鼓の手引き」に引き続き、今回も声明を習得できるような映像資料の作成計画報告。

### 【IT委員会】

委員会開催報告。HP「般若」アクセス数の推移報告と各コンテンツ更新報告。情報提供と委員会と委員会内部との連携を計り、β版の運用から「般若」への還元促進。WEB2.0を利用した情報ツールの提供計画報告。組織内業務連絡ツールとしてのメールシステムの提供計画報告。

### 【本部事務局】

第一回(第五回)執行部・理事会の開催報告。東海・九州・中国・東北管区大会開催報告。特別委員会・次期会長選考委員会開催報告。

## 【会計中間監査報告】

平成十九年四月一日から平成十九年十一月二十五日まで。

## 第二号議案〈特別委員会経過報告〉

### 【特別委員会】

委員会開催報告。審議事項一、「全国曹洞宗青年会執行部の選考に関する規定」の変更(第二条三・第三条一)について。  
・第二条(選考委員会)  
(旧)三、選考委員の任期は各期初年度定期総会終了時より翌年の定期総会までとする。  
(現)三、選考委員の任期は各期初年度定期総会終了時より会長候補者及び副会長候補者が選任されるまでとする。  
・第三条(選考委員会委員長及び副委員長)  
(旧)一、選考委員会に委員長及び副委員長各一名を置く。  
(現)一、選考委員会に委員長一名及び副委員長若千名を置く。  
【全国曹洞宗青年会執行部の選考に関する規定】の制定(第十一条)。

## ・第十一号(準用事項)

本会会則第四十三条(委員会の職務)の規定は、選考委員会について準用する。  
※第四十三条(委員会の職務)一、委員長は、委員会を主宰する。二、副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき又は委員長に事故あるときは、委員長の職務を行う。三、副委員長が委員長の職務を行う順位は、副委員長の協議による。

平成二十年定期総会・定期評議委員会に関する事項、会則の変更に関する事項(第七章執行部三十五条)。  
・第七章執行部三十五条(執行部の組織)  
(旧)二、執行部は、会長一名、副会長三名、各委員会委員長一名、事務局局長一名、事務局員若千名、会計一名をもって構成する。  
(現)二、執行部は、会長一名、副会長三名、各委員会委員長一名、事務局局長一名、事務局員若千名、会計若千名をもって構成する。  
全日仏曹青への出向の規定の制定と予算化の検討、全曹青の組織編成の見直しについて。

### 【本部事務局】

全国曹洞宗青年会定期総会及び定期評議員会地方開催について。開催予定日、平成二十年五月八日(木)から五月九日(金)。開催予定地、北海道札幌市中央寺専門僧堂。開催内容の詳細は、「そうせい」二四一号にて掲載予定。

## その他・連絡事項

### 【平成十九年度全日本仏教青年会】

各委員会会議・IBYE二〇〇七(国際仏教徒青年交換プログラム)・財団設立五十周年記念式典・全日本仏教徒会議神奈川大会出席報告。三十周年記念実行委員会・国際委員会・「花まつり千僧法要」・WFB(世界仏教徒連盟)世界仏教徒会議・日本大会、WFBY(世界仏教徒青年連盟)、WBU(世界仏教徒大学会議)、日本大会慶讃・千僧法要の参加予定。

### 【いずも曹洞宗青年会】

平成十九年度禅文化学林・第三十回中国曹洞宗青年会大会開催報告並びに御礼。



# 全国曹洞宗青年会

## 第十八期会長選考について(公募)

会長選考委員会に於いて、会則並びに細則に従って下記の事項が決定されました。

全国曹洞宗青年会第十八期会長に、立候補する者は左記の要項に従い、立候補届を完了して下さい。

全国曹洞宗青年会 第十八期会長選考委員会 委員長 吉川 道隆

### 全国曹洞宗青年会 第十八期会長選考委員会 届け出要項

- 一、立候補届並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における履歴書の提出
- 三、推薦状 ①管区曹青会代表者 ②曹青会代表者
- 四、立候補に当たって執行方針の提出
- 五、立候補届送付先  
全国曹洞宗青年会 第十八期会長選考委員会 委員長 吉川 道隆  
〒三二一八・〇〇二一  
茨城県高萩市安良川六八六  
玖臺寺内  
電話 〇二九三・二四・〇八三三  
FAX 〇二九三・二二・三三三四
- 六、立候補届け出期限  
平成二十年二月十五日(金)必着
- 七、立候補届け出方法  
必ず郵便書留にてお願い致します。
- 八、選考委員会構成員  
選考委員長 吉川 道隆(関 東管区理事)  
選考副委員長 中沢 宏哉(東 北管区理事)  
持地 俊一(九 州管区理事)  
選考委員 芳村 元悟(第十七期会長)  
大野 弘隆(東 海管区理事)  
吉川 貴寛(近 畿管区理事)  
宇田 治徳(中 国管区理事)  
伊藤 和人(四 国管区理事)  
荒井 徹成(北信越管区理事)  
芹田 尚典(北海道管区理事)

## 全国曹洞宗青年会会則(抜粋)

### 第七章 執行部

#### 第三十五条(執行部の組織)

- 一、執行部は、会長一名、副会長三名、各委員会委員長一名、事務局局長一名、事務局員若干名、会計若干名をもって構成する。

#### 第三十七条(執行部の選任)

- 一、会長、副会長及び執行部は、正会員の中から総会で選任する。
- 二、前項に関するほか、会長、副会長及び執行部の選任に関する規定は、「全国曹洞宗青年会執行部選考に関する規程」に従って選任する。

#### 全国曹洞宗青年会執行部選考に関する規程

##### 第一条(目的)

本会の会長及び副会長の選考は、公平及び中立を旨として、本会会則第三十七条第二項に基づき、この規程によつて行う。

##### 第二条(選考委員会)

一、本会は、会長候補者及び副会長候補者の選考を行うため、選考委員会を組織する。

二、選考委員会は、管区理事及び会長をもつて構成する。

三、選考委員の任期は各期初年度定期総会終了時より会長候補者及び副会長候補者が選任されるまでとする。

四、選考委員が欠けた場合は、当該管区から補欠選任する。その任期は前任者の残任期間とする。

五、選考委員会の委員は、その委員会において知り得た秘密を保持する権利を有し、義務を負う。

##### 第三条(選考委員会委員長及び副委員長)

一、選考委員会に委員長一名及び副委員長若干名を置く。

二、委員長及び副委員長は委員の互選による。

##### 第四条(選考委員会の職務)

一、選考委員会は次期会長候補者及び副会長候補者の届出の諸手続を定める。

二、前項の諸手続は、当該年度の二月一日まで公報する。

##### 第五条(選考委員会の招集)

一、選考委員会は委員長が招集する。

二、選考委員会の会議は、委員三分の二以上出席しなければならない。

三、選考委員会の議事は出席委員の三分の二をもつて決する。

##### 第六条(委員の立候補及び推薦の禁止)

選考委員会の委員は、会長または副会長の候補者若しくはその推薦人となることはできない。

##### 第七条(会長候補者の選考と資格)

一、会長候補者とならうとする者は、本会会則第八条に定める正会員の中から就任年度四月一日に満三十九歳以下の者より選考する。

二、前項の者は、各管区曹洞宗青年会代表者及び所属青年会代表者の推薦状を添付した申出書を、選考委員長に届け出なければならない。

三、選考委員会は、前項の候補者の中から次期会長候補者を一名選考する。選考の手続は第五条に定めるところによる。

# 第三十二回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会報告

去る平成十九年十一月八日(木)福島県飯坂温泉「ホテル聚楽」に於いて、第三十二回曹洞宗青年会東北地方集會福島大会が開催されました。当日は、穏やかな小春日和のなか、百二十余名の会員が参集し盛大にとり行われました。

私たちは、これまで「東北は一つ」を合い言葉に「大衆教化の接点を求めて」をスローガンに掲げて、今日までの東北地方集會の歴史を刻んで参りました。さらに、今大会は、現在曹洞宗が推進しております、「人権・平和・環境」をテーマとし、多彩な講師陣をお迎えし研鑽いたしました。

開会に先立ち、午後一時より大会式典を行い、仏祖諷經に引き続き、中沢宏哉大会会長(秋田県曹洞宗青年会)の主催者挨拶をはじめ、来賓の諸老師の方がたからご祝辞を頂戴いたしました。曹洞宗福島県青年会会長・阿部光



ヴァイオリンを弾きながら歌う増田太郎氏、前向きな生き方も語られた



過去・現在の政治・経済を鋭く講じていただいた佐高信氏



内山愚道の改革精神をもつことの重要性を述べられた田中伸尚氏

裕師から、次期開催県として秋田県曹洞宗青年会会長・亀谷隆道師に絡子が伝達され、亀谷隆道師から開催の抱負が述べられました。その後、中沢宏哉大会会長より決議文が述べられ式典が終了しました。

午後一時三〇分より、一般檀信徒の方がたと共に、第一部講演会として増田太郎氏のコンサート「やれるんだできるんだいまの自分でも」をテーマにする、ピアノの弾き語りとヴァイオリンを弾きながら歌うバンド演奏が行われました。増田氏は、自身が全盲である現実を受け止め、前向きに生き

る姿を歌に託して活発な音楽活動を展開されています。コンサート終了後は、会場全体が感銘を受け、鳴り止まぬ拍手がとて印象的でありました。

その後、午後三時から第二部講演会「平和に祈る集い」と題し、評論家の佐高信氏とノンフィクションライターの田中伸尚氏をお迎えし、「善悪の報に三時ありー私がつめ 自らが行い自分の言葉で語る「平和」」をテーマに、それぞれの立場から講演いただきました。講演内容は、政治・憲法と国民の歴史や、宗教者の自覚的行動のあり方等を、笑いを交えての熱い講演会となりました。

午後七時より懇親会に移り、全曹青年会会長・宮寺守正師の乾杯の挨拶から始まり、環境問題や社会問題をメッセージに歌う「ソウルメイト」(仙台を中心に精力的に活躍)の余興ライブが行われ、東北会員の皆さまのさらなる交流を深め、あつという間に時間が過ぎ、本県副会長星見泰寛師の中締めの挨拶において、成功裡に終えました。

平素私たち青年僧侶は、仏教的かつ宗学的な立場からのみ、ものごとを視る姿勢を維持しております。それは、大切なことに違いないのですが、青年の私たちは「広く・大きく・偏見を持たず」をモットーにして、貪欲なまでに、あらゆる思想と思考をもつこと

が、幅広い視野をもつ僧侶として、これからの社会に役立つ大切な学習であると思うのです。

こうして今回の福島大会は、無事に幕を閉じることが出来ました。参加者・関係者各位の皆さまのご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

曹洞宗福島県青年会

事務局 中條 康道



増田太郎氏を中心にして

# 曹洞宗 長崎県南部曹洞宗青年会 活動紹介

会長 柴田 賢一  
 庶務 三浦 亮弘  
 会計 伊崎 寛泰  
 会員数 十三名(平成十九年度現在)  
 発足 昭和五十五年



長崎県南島原市・玉峰寺様を中心に4日間の巡錫

長崎県南部曹洞宗青年会は、「長崎県曹洞宗青年会」の支部として昭和五十一年に諫早・島原地区の宗侶で結成されました。以来、托鉢・略布薩・攝心・お袈裟を縫う会等の行持を、現在十三名の会員で継続維持しています。

\* 托鉢は毎月一回各会員の寺院に結集し、

## 長崎県南部曹洞宗青年会

### 活動紹介

その地域を巡錫します。特に一月の寒行托鉢は、おもに諫早・島原地域で四日間行っています。

\* 略布薩も会場を毎月各会員の寺院を持ち回りに行っています。配役は戒師を含め前回のときに割り当て、各人が行持全体を取録したCDを元に練習し本番に臨むので緊張感があり、修行時代を思い出します。経本や教授戒文は、会独自で作製し行持全体の統一をはかっています。

\* 攝心は昭和六十三年から年二回(降誕会、成道会の時期)二泊三日の日程で行っています。期間中、僧侶あわせて六十、七十名ほどの参加者があり、九州内はもとより遠くは関東・中国・四国からの参加者もあります。

この攝心は、四時(黄昏)午後八時(後夜)午前二時・早晨(午前十時)・晡時(午後四時)の坐禅、三時(朝課・日中・晚課)の誦経・行鉢・略布薩の行持を如法に実践することを基本にしています。会中、在家の方がたも在家用応量器で行鉢していただきます。展鉢は事前にオリエンテーションで指導しますが、習うより教えることの難しさを毎回痛感しています。

尚、攝心中の醍醐味は、坐禅中での法悦を味わうことは無論のことですが、唱尊師須田道輝老師(諫早市・天祐寺住職)の実践に基づく提唱にあります。老師に

はこれまで『永平頌古』『參同契』『宝鏡三昧』『空谷集』『洞山録』といった曹洞宗の源流というべき祖録をご提唱いただき、現在は『正法眼蔵』を講じていただいております。会中、三講の提唱は講本場の満衆になるほどの盛況ぶりです。攝心の参加者は宗侶より在家の方が多く、在家の方がたの熱心で積極的な姿勢を拝見していると、自然と身が引き締まる思いがいたします。

\* お袈裟を縫う会(裁縫会)は、毎年六月下旬に三泊四日の日程で開催します。

講師に愛知県常宿寺東堂岡本光文老師を拝請し、昭和五十七年の第一回開催より、毎年遠隔の地へお越しいただき、絡子やお袈裟の裁縫はもとより、お袈裟全般に亘り親切丁寧に指導いただいています。参加者は宗侶や寺族・在家の方がたで、方丈様達のお袈裟を一針三礼の気持ちで心をこめて縫われます。

また晋山結制をひかえた会員の中には、寺族や檀信徒の助針によって糞掃衣を縫い、結制の際に糞掃衣を身に着けて上堂する人もおられます。平成十九年の裁縫会裁縫会(六月二十五日～二十八日)には、特に熊本・聖護寺(国際禅道場)の国際公開安居の安居者(ペルー、アルゼンチン、アメリカ、カナダ、スイス、スペインの六カ国、男性六名、女性六名、計十二名)の方がたが参加されました。オリエンテーションや把針指導は日本語・英語・ポルトガル語が交わり国際色あふれる裁縫会となり、それぞれが絡子を縫われました。今回も、新しい絡子やお袈裟が生まれ、その輪が世界中に拡がっていくことに新しい感動をおぼえました。

とりわけ海外から来られた人達の仏道や禅に取り組み真剣な姿勢を、私達宗侶は見習わなければとも思いました。言語



長崎県諫早市徳養寺様にて、裁縫講義やオリエンテーション等参加者が交流する機会もあり、より一針三礼の心に集中する会だった

や生活習慣の違い、ましてや宗教の違いを乗り越えて、仏道や禅を学ばんとする求道の姿勢は、かつて一命を懸けて大陸へ渡り日本に正法を伝えられた歴代祖師の求道の姿勢と重なり、私達に深い感銘と大きな刺激を与えてくれました。澤木興道老師は「近頃は仏道というものを、寺を持つまでの修行と思っている者がおる」とおっしゃいましたが、海外の人達と共に四日間は、私達の無始無終の日々の行持の原点を改めて見直すきっかけになったと痛感しています。

以上、長崎県南部曹青会という小さな組織で、二十数年にわたり継続維持している行持を紹介させていただきました。「相続や大難」といわれるように一つの行持を長く継続していくことは大変難しいことです。しかし、「帰依僧和合尊」とあるように、会員同士が自己をわすれて和合し、行持を中心にして長く相続していくことが出来得ると思えます。曹青会の行持によって自己を深める、向後もそのような曹青会でありたいと念じて止みません。

合掌

**IT委員会**

今期のIT委員会は動いています。その第一号が、全曹青フォーラム(WEB2.0)です。  
簡単に言えば、全国の青年僧をつなげるサイトなのです。まず寺院での日常の疑問や相談ができる。そして明日に向かって走っている青年僧がその情熱を語り尽くせる感動あるサイトです。  
今もそのサイトの中で新しい企画が動いています。  
立ち止まっている場合はありません↓(it@sousei.gr.jpへのメールから始めます)  
全曹青公式サイト「般若」<http://www.sousei.gr.jp/>もご覧ください。  
副委員長 高木 一晃(四国)

**総務委員会**

今期から総務委員に委嘱され、初めて会議などに出席しました。その際、総務委員とは、「影」であり、本部の庶務さんと共に各事業に深く関わりを持ち合わせ、黒子のような存在だと思いました。それと総務委員としての独自の事業活動もあり花まつりキャンペーン活動等、私自身、各委員長さんが企画立案される場である会議にお手伝いとして参加しますが、毎回真剣に取り組んでいることを拝見して委員会員として本当に微力ではありますが、議事進行が少しでも円滑に進むようにと思う次第です。  
最後にこれからは影として黒子として自分自身に吸収していきますのでどうぞ宜しくお願いします。  
委員 山澤 顕雄(山形第一)

**青少年教化委員会**

平成十九年十月六日、愛知高校生おうちつくろう精進料理を開設した。  
始めに白澤さんより日本の食事情や箸の使い方についての講義があり、その後高校生二十四名と我々七名とで、精進料理を一緒に作り、食し、そして片付けた。  
この中で私が一番印象に残ったのは、お粥に入れて食べる「ごま塩」が余り、欲しい人を募るとほとんどの生徒が手を挙げたことである。この様子はただただ嬉しかった。  
何かしらの縁の力によって、この講座でめぐりあった私たち。講座を通して生徒さんたちにも何かを感じていただけたと思う。と同事に私自身、実際のふれあいによってお互いが学びあうことを改めて肌で感じた講座であった。  
委員 西古 孝志(いづも)

**広報委員会**

今期私は初めて全曹青の委員となった。今までは敬して遠ざけ、不惑の歳まで遙拝するつもりでいた。「地元曹青会」だけに所属していたときは、全曹青に対してあまりいいイメージをもっていなかった。後学のための技術の習得を期しての参加だったが、実際に活動に加わってみると、皆の熱心さに心動かされることも多かった。委員としての日が浅い私が出たものは、技術ではなく「スピリッツ」。これは今後も変わらないだろう。  
委員 関根 和明(埼玉第一)

**法式委員会**

志州の歎仏に触れて  
それは、まさに賛歎という言葉がぴったりな光景でした。平成十九年十一月十八日、長崎県の志岐にありますが、龍蔵寺様で十夜歎仏の取材をさせていただきました。志岐歎仏は大陸の仏教や黄檗宗の影響を受けたとされていますが、涙する遺族や、参列者もらい泣きする光景からは、この法要に対して志岐の方が長年培ってきた思いが強く込められているように感じました。志岐の各寺院の皆さまには、取材に際し、色々ご協力いただきありがとうございました。  
委員 森永 良徳(佐賀)

**ボランティア委員会**

災害復興支援活動においては、地域の社会福祉協議会や全国各地より現地入りされたボランティア組織との繋がりとともに、さまざまな宗門関係の団体や各曹青会の方がたのご協力が不可欠となります。ボランティア活動を行う一人一人が厚い信頼関係のもと連携し、被災者の方がたに寄り添い、支え合っていくことで支援の輪はさらに広がってまいります。  
第十七期全曹青のスローガンは「SMILEつながれ笑顔」。会員相互の繋がりをさらに厚いものとし、支援の輪を広げるとともに、誰かの笑顔と安心のための活動を当委員会では実践していきたいと考えております。会員の皆さま方のご理解とご協力をお願いいたします。  
委員長 瀬田 啓道(鳥取)



## 委員会紹介

# 青少年教化委員会

### 【活動目的】

個人主義や物質（お金）至上主義偏重の日本社会において、人びとの宗教性が脆弱化しているかのよう、「御蔭様」や「感謝」という言葉の意味も薄れている感があります。このような社会で近年、青少年に限らず、イジメ・自殺・犯罪といった事象がクローズアップされ社会問題になっています。今、このような時代に、青年僧侶として何が出来たのかを考えていくことが非常に重要であると思います。そして「教化」していく上では「めぐりあい（縁）」が根本であり、僧侶と青少年がふれあう教化方法を模索し実践していきたいと考えます。

実際にふれあう中で、青少年の心の中に「生かされている自分」という自覚を促し、「思いやり」「感謝」の気持ちを持つひとづくりにつなげていきます。さらに、この活動が青年僧侶の活動の参考になるよう努めていきたいです。

### 【活動の方針】

オウム真理教による事件以降、一般社会における宗教と宗教団体のイメージは下降し、宗教全体への偏見を生み出しました。さらに、その後、宗教家によるさまざまな事件が発覚し、社会に広がる宗教への不信任や嫌悪感は益々広がりを見せています。

このような時代だからこそ、改めて純粹に教化を見つめ直すことが必要なのです。そこで、第十七期青少年教化委員会においては、「めぐりあい（縁）」をキー

ワードに僧侶と青少年とが接する教化活動を模索していくことにしました。今日、子ども達のみならず大人達でも僧侶との接点は寺院を介した法要・行事が主であります。ましてや普段の生活の場で、寺院・僧侶との関わりが希薄な社会において、教化活動の難しさは私が言うまでもありません。

教化のまず第一歩はめぐりあう事だと思えます。それも厳粛な空気が漂う寺院ではなく、子ども達にとって日常的な学校などの生活の場において私たち僧侶とめぐりあうことがたいへん意味のあることだと思えます。

そして、今期のメインテーマを「お坊さんとふれあおう」として出向く形の活動にこだわりを持ちました。現段階では受け入れ先の需要は、皆無であります。まず最初に宗門学校の愛知高校を会場にサブテーマ「『つくりこみ』の精進料理」として精進料理講座を平成十九年十月六日と十二月一日の計二回開催することになりました。

また、将来的な企画の受け入れ先の需要発掘をするため、子どもたちの教育研究会LEIS（子ども達の周辺の社会問題を解決するべく学校関係者を中心とする会）に委員会として参加し、今後の委員会活動に役立てることもすでに決まりました。

最後にこの活動が皆さまの教化活動の参考になるべく委員一同研鑽・努力して参りますので、今後とも宜しくお願いたします。

## 各委員コメント

委員長・慶徳 雄仁



（岩手県曹洞宗青年会）

「青少年を取り巻く環境は、著しく変化している。そこで、この活動を通して教化を再考し新たな教化のあり方を模索したい。」

委員・角 光全



（山口県曹洞宗青年会）

「このたびは、ご縁をいただきまして青少年教化委員の役にあらせていただきました。よろしくお願いたします。」

副委員長・白澤 雪俊



（青森県曹洞宗青年会）

「今までを大切に、そして新しいことにチャレンジする第十七期にしたい。大胆に、それでいて地道にコツコツと。」

委員・諸岡 幹哉



（京都曹洞宗青年会）

「二年間という限られた期間ですが、委員長さんをはじめ各委員さんと共に精進してまいりたいと思います。」

委員・秋吉 龍成



（鹿児島県曹洞宗青年会）

「児童生徒たちの反応を、その場で感じながらメッセージを伝えることができれば、この上なく嬉しいですね。」

委員・西古 孝志



（いずも曹洞宗青年会）

「さまざまなめぐりあい（縁）をとおして、どんな彩りが生まれるのか、微力ながら精進してまいります。」

委員・加藤 康由



（東三河曹洞宗青年会）

「青少年の健全育成の諸問題につきましても、微力ではありますが、少しでも役立つよう精進いたします。」

委員・南 秀典



（茨城県曹洞宗青年会）

「先輩宗師のご指導をおおき、微力ながら精進させていただきます。」

【委員会活動報告】全曹青青少年教化委員会企画第一弾

お坊さんとふれあおう！  
— つくろう精進料理 —

【企画趣旨】

「青少年教化」という言葉を今一度見つめ直すと、僧侶と青少年との「めぐりあい（縁）」を大切にすることであります。実際に青少年とふれあう教化を模索し、実践すべく「お坊さんとふれあおう」を第十七期青少年教化委員会メインテーマとして講座を開催していくことになりました。そして、青少年の心の中に「生かされている自分」という自覚を促し「思いやり」「感謝」の気持ちを育めればと考えます。この活動そのものは、ごく小さなものでありますが、全国青年僧侶の皆さまと共に、広がりのある活動になることを信じて止みません。

【活動報告】

今回は、サブタイトルとして「つくろう精進料理」として愛知高校を会場に精進料理の講座を計二回開催しました。

実施日時

〈第一回〉

・平成十九年十月六日（土）

十時四十五分～

十二時十五分（九十分）

〈第二回〉

・平成十九年十二月一日（土）

十三時～十四時三十分（九十分）

対象は生徒・一般、定員三十名で募集をしました。講師は、本誌「そうせい」にて「菜食健美」を連載中の白澤雪俊副委員長が務めました。※この原稿の執筆中は、第二回開催は実施前ですので、第一回のみご報告申し上げます。

〈第一回〉平成十九年十月六日

当日の参加者は生徒二十四名・僧侶八名でした。



ピーナッツをすりつぶすのも案外難しい(><)

〈日程〉

前日 委員による事前準備十六時～

当日

十時 委員集合・準備

十時四十五分 挨拶

十一時 講座

十一時半 調理実習

十一時四十五分 食事（五観の偈あり）

十二時 片付け

十二時十五分 アンケート用紙記入

終了解散

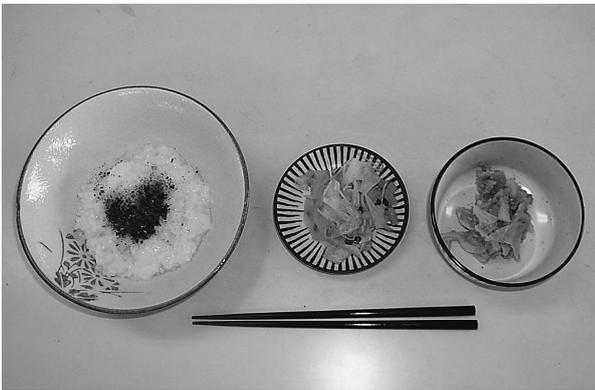
〈献立〉

一、おかゆ、胡麻塩

二、おかずその一 皮ひき大根の胡麻油もみ漬け

三、おかずその二 キャベツのピーナッツ和え

四、焼茶



盛りつけた状態



僧堂ではないので和気あいあいと楽しくいただきました \(\^o^)/

【今後の展望】  
今回のようにそれぞれの講座は単発かもしれませんが、社会にアピールすることでニーズを引き出し、実績を積みながら新しい企画を、次つぎ開催していけるようにしていきたいと思えます。今後は講座を編集し、全曹青各会員の皆さまも活用できるように情報を発信したいと思います。尚、アンケート結果等は「そうせい」一四一号にてご報告いたします。



26	9	5	福岡県	178	164	157	100	愛媛県	8	高知県	195	187	172	161	139	132	99	98	66	42	島根県第二	282	253	島根県第一	182	165	163	159	81	54	30	17	16	鳥取県	224	207	145	142	138				
			清善寺様	円清寺様	妙徳寺様	安養寺様	城慶寺様	明光寺様	吉蔵寺様	永禅寺様	總光寺様	養善寺様	總覺寺様	大林寺様	十楽寺様	相円寺様	禅慶院様	法船寺様	浄心寺様	常德寺様	常徳寺様	瑠璃寺様	西光寺様	東光寺様	長寿寺様	雲光寺様	大祥寺様	大岳院様	東昌寺様	長通寺様	普含寺様	瑞泉寺様	円通寺様	向徳寺様	久屋寺様	弥勒寺様	善福寺様						
109	43	38	5	長野県第一	31	宮崎県	89	熊本県第二	60	59	11	6	熊本県第一	231	194	167	161	150	27	18	佐賀県	78	51	43	19	13	8	1	長崎県第一	125	100	22	大分県	158	151	107	98	65	28				
			興禅寺様	洞仙寺様	耕雲庵様	寛松寺様	地福寺様	金慶寺様	含蔵寺様	円通寺様	宗禅寺様	泰巖寺様	福田寺様	普恩寺様	恵日寺様	長得寺様	元光寺様	長泉寺様	久善院様	久善院様	宝泉寺様	祥雲寺様	東光寺様	晴雲寺様	天福寺様	円福寺様	皓台寺様	任聖寺様	勝光寺様	能仁寺様	報恩寺様	大円寺様	天徳寺様	不動寺様	常楽寺様	桂木寺様							
418	412	400	393	381	366	358	346	313	311	新潟県第一	208	26	83	富山県	109	75	石川県	218	145	30	15	福井県	400	377	長野県第二	580	571	339	338	306	300	243	216	213	179	178	177	158	147				
			定正院様	甌洞庵様	東福寺様	曹源寺様	智徳寺様	清岩寺様	円光寺様	繁慶寺様	楞嚴寺様	大慈寺様	地蔵寺様	徳城寺様	永久寺様	守禅寺様	大覚寺様	常福寺様	瑞林寺様	永源寺様	心月寺様	長久寺様	宝勝寺様	観音庵様	嶺雲庵様	廣山寺様	長谷寺様	城光院様	威徳院様	広徳寺様	常昌寺様	盛隆寺様	正福寺様	林秀庵様	健命寺様	満泉寺様	徳心院様						
204	178	175	119	107	101	83	66	58	44	41	24	11	福島県	809	738	304	288	285	281	259	258	239	189	178	173	92	30	23	新潟県第四	646	563	536	530	新潟県第三	725	新潟県第二	729	496	451				
			龍光寺様	広度寺様	天沢寺様	長泉寺様	岳林寺様	成林寺様	最禅寺様	金秀寺様	西泉寺様	玉泉寺様	石雲寺様	盛林寺様	宝勝寺様	不動寺様	東泉寺様	宝蔵寺様	大伝寺様	常楽寺様	長楽寺様	善福寺様	千眼寺様	東泉寺様	清流寺様	仲山寺様	東陽寺様	茂林寺様	観音寺様	名立寺様	龍光院様	東福院様	花栄寺様	高徳院様	大日寺様	長楽寺様	正圓寺様						
465	440	432	429	427	418	414	413	380	359	281	271	264	228	226	213	83	51	49	35	34	33	28	18	13	1	宮城県	405	374	352	349	338	314	299	297	296	294	275	235	226				
			松岩寺様	城国寺様	耕田寺様	照明寺様	双林寺様	光明寺様	虎溪寺様	福現寺様	長観寺様	保昌寺様	光明寺様	願成寺様	玄松院様	瑞川寺様	真昌寺様	松窓寺様	向泉寺様	心月寺様	化度寺様	龍雲院様	江巖寺様	玄光庵様	輪王寺様	東秀院様	福聚院様	昌伝庵様	勝方寺様	常德寺様	大同寺様	宝昌寺様	西光寺様	隣松院様	一山寺様	蘭秀寺様	常春院様	東光寺様	性源寺様	宗徳寺様	常隆寺様		
659	593	521	504	457	山形県第三	372	305	山形県第二	241	227	208	194	101	91	14	山形県第一	185	113	112	95	79	17	8	青森県	304	281	275	252	249	233	146	142	120	69	38	32	21	4	岩手県				
			持地院様	玉川寺様	大川寺様	地蔵院様	永伝寺様	昌伝庵様	玉林寺様	福昌寺様	多福院様	普門寺様	龍護寺様	長泉寺様	昌林寺様	耕雲寺様	観音寺様	正洞院様	法蓮寺様	龍川寺様	法光寺様	普門院様	宝積院様	柳善院様	洞岩寺様	不味庵様	柳玄寺様	光明寺様	玉泉寺様	正福寺様	安養寺様	菅生院様	大興寺様	正音寺様	吉祥寺様	恩流寺様	長松寺様	岩手県					
321	306	295	284	280	272	246	243	213	210	209	202	167	136	128	109	93	30	26	22	17	14	1	秋田県	734	718	687																	
			鏡得寺様	洞雲寺様	太平寺様	善徳寺様	玉鳳院様	徳昌寺様	福城寺様	實藏寺様	南陽院様	多宝院様	満友寺様	重福寺様	地蔵院様	長谷寺様	耕伝寺様	龍門寺様	正重寺様	嶺徳院様	洞泉寺様	源正寺様	補陀寺様	東光寺様	鱗勝院様	東光寺様	長光寺様	寶泉寺様															

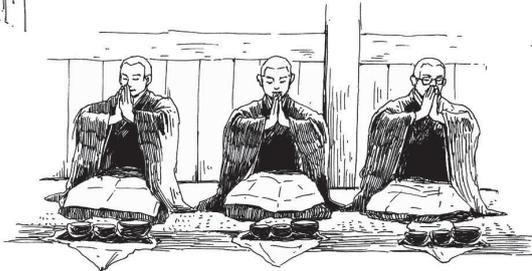
全国曹洞宗青年会の活動は  
皆様の賛助会費等によって  
支えられております  
この度も御協力頂き  
誠に有難うございました

# 茶食健美

## 典座寮お役立ちナビ③

### 『典座教訓』を实生活の知恵袋として――

一三八号から続いて、第三回目の最終章として、授戒会（大法要など）における典座寮（調理場）の体験談、そこから、どのように実生活へ活かし、取り入れるべきかを、私なりに述べさせていただきます。



失敗の積み重ねこそ大切です。メモを取り、書き記しておくことにより、次の場面の体験が「感と読み」として、いつしかピタリと当てはまっていくものです。

④「調理器具を自分の眼のように扱うべし」

自分自身の眼を粗末にする人は誰もいないはず。約七五〇年前に道元禅師様が、『典座教訓』に記されている通り、扱う鍋や皿などは自分の眼と同じく、大切に扱うべきであり、清潔にしておいて、次に使うときに備えて整理整頓しておくべき気遣いなのです。

⑤三輪空寂

調理する側と戴く側、加えて食材と合わせて三つの輪で互いに尊重しあい、感謝を忘れないことです。作る側は果報、報いを求めないその姿こそが、最高の贈り物となり、共に喜び合えるのです。（展鉢之偈：願共一切衆 等三輪空寂）

②献立を戒弟（参加者）に説明  
食事の時間でお唱えをして、もくもくと食べるだけではなく、食事中に「食べながらでもいいので」と一言添えた上で、典座寮員が毎食献立を読み上げて説明をすると、食べる側もどの方が作ってくれたのかと安心した様子が見られます。手作りであるが故に出来るすばらしさでしょう。

③感と読み  
さまざまな経験、つまり失敗を積み重ねていくと、何事においても成長できるはず。

今年永平寺三世徹通禅師様の七百回忌を迎える節目の年であり、掲げたスローガンとしている「喜心・老心・大心」というお言葉は言うまでも無く『典座教訓』の文中後半に記された結びの一節であります。

典座寮（調理場）を勤めるにあたり、こと細かく、そして親切にと、心構えと行動がどうあるべきかを、私達一人ひとりが『典座教訓』から感じ取り、実生活の知恵袋として、道元禅師様の

教えに、少しでも近づいていただけるよう切に願います。

合掌

文 白澤 雪俊（しらさわ せつしゅん）  
昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学（仏教科）に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に随身（住職にお任せし学ぶ修行僧として過ごした）後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間の中、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。

現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。第十七期全国曹洞宗青年会青少年教化委員会副委員長。  
著書「身体にやさしい料理をつくらう」  
（二ニュートンプレス）  
ホームページアドレス  
<http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/>

株式会社  
中央デザイン  
CHUO DESIGN CO.,LTD.

Desktop publishing  
Print Industry

〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目 防災ビルB1  
TEL (011) 716-4813  
FAX (011) 716-4818  
[chuou-design@bz01.plala.or.jp](mailto:chuou-design@bz01.plala.or.jp)

大空玄虎は、武州（武蔵）の出身であり、正長元（一四二八）年に出生した。幼時より教院にて出家修道し、生来聡明で經典の大意を了得していた。しかし、ある時機を打って、徒に経論の精究に勞するより、達磨の命脈を繼承する禪門の宗旨に參ずることが修道の本義であると歎声を発した。

ちょうどその頃、遠州（遠江）の石雲院にて、崇芝性岱（一四一四～一四九六）に相見し、衣を改め約二十年左右に侍することとなる。玄虎はしばしば自らの見解を示したが、性岱の峻厳なる家風は、容易には許さなかった。ある日、玄虎は性岱に平手打ち一発をくらわされ、悟道の境地に至るが、玄虎は禅牀をひっくり返すという鋭い機鋒を呈し、性岱を深く傾かせた。以後、玄虎は性岱の法席を継ぎ、玄虎の雷名は、叢林間に轟くこととなる。

玄虎には、いくつかの逸話が伝えられている。文明四（一四七二）年、勢州（伊勢）阿射加の山中に地獄谷があり、終日猛火、沸湯で人びとはその畔に近づくことができなかつた。玄虎は不審に思い、皇太神宮に参詣し、夜を徹して禅定に努めたら、神のお告げがあり、直に阿射加の幽谷に隠棲し、七日間石上で坐禅の日々を重ね、威を振るって喝破すると、山谷は静まり、妖怪は忽ち姿を消したという。

また文明十三（一四八二）年、玄虎は備中の洞松寺に赴き、伽藍を再興し禅規を整えた。ある日、藏主堂に童子が集まり遊んでいたが、一人の童子が藏主の前で小便をしたら、悶え苦しみ、忽ち死んでしまった。玄虎はこのことを聞き、藏主に向かつて「お前にこの伽藍の護持を托したのに、何故無

知な童子を死なせた。山門を出て行け」と、拄杖で地を三下すると、童子は忽ち蘇った。

更に四年を経て玄虎は、勢州・浄眼寺に帰山の途中、旅籠で一泊するが、その地は古より妓女の魂が地に宿るとされていた。夜になると、亡霊の悲哀

山禅師の時代前後より、真言・密教系の儀規・儀則が洞門に取り入れられ、在俗への化導の一端として、祈願・祈祷の類いも盛んに行われているが、玄虎においては、日夜坐禅の一行に精勵されたのであり、その久修練行の定力により生ずる禅機・禅用の活作略により、さま



## だいくうげんこ 大空玄虎

と人を怨むが如き泣き声が聞こえた。玄虎がその霊に対し一偈をもって導くと、間もなく妓女の魂は昇天し、輪廻の苦海から逃れたとされる。

玄虎には、以上のような霊異・霊怪・霊瑞に関する逸話は、この他にも多々あったと思われる。ただ一般には、瑩

さまざまな鬼神・妖怪の類いを打破し、吉瑞をもたらしたものと思われる。

実参実究を重んじた玄虎は、延徳元（二四八九）年、大衆から『碧巖録』の提唱を要請され、「宗門の言句は、木の切れ端の吸物、鉄棒のようなものである。知解するのではなく、参究する

ものである。妄りに解釈すれば、真実の悟りから遠ざかるから、慎むべきである。ただ衆を憐れむ故に、幾巻かの鈔を示す」と答えている。ここには玄虎の確固不動の信念と至誠篤実の志をもって演法する真摯な姿がみられる。

永正二（一五〇五）年、玄虎は勢州・廣泰寺にて、ある日大衆を集め最後の垂誠をして、泰然として坐化された。その威徳・風格は、衆人の崇敬するところであり、高潔にして秋霜烈日の生涯を貫かれた。

文：菅原 諭貴（すがわら ゆうき）  
一九五七（昭和三十二年）北海道生まれ。  
愛知学院大学博士課程単位取得満期退学。  
愛知学院大学講師、助教、教授を歴任。  
現在、苫小牧駒澤大学講師。北海道龍徳寺住職。

画：山田 剛弥（やまだ たかひろ）

総合御寺院用仏具専門店  
株式会社 七福商事  
福祿堂 佛具店

フリーダイヤル 0120-77-2969  
【ホームページ】<http://www.shichifuku.ecnet.jp>  
本社・工場 展示場 福岡県八女郡広川町日吉 1407  
関東営業所 埼玉県加須市久下4丁目1-2

# 苦を考える

護山真也

仏教を特徴づける旗印が法印です。「諸行無常」(すべてのものは変わりゆく)、「諸法無我」(あらゆるものには定まった本性はない)、「涅槃寂靜」(苦しみ吹き消され、静かな心の状態となる)の三つで「三法印」、これに「一切行苦」を加えて「四法印」と呼ばれます。

「無常」、「無我」、「涅槃」は、確かにお釈迦様しか説かれなかった独特の教えのようですが、「苦」という四番目の法印は、ちょっと見ただけだと、お釈迦様の特別な教え、という感じがしません。これが単に「人生の苦しみ」程度の意味だとしたら、「人生って苦しいですよ」なんて、別にお釈迦様でなくても、言い出しそうなものです。「法印」という大仰な看板を立てて、ことさら強調されるほどの衝撃的な真理が、本当にここで語られているのでしょうか。ふと心に浮かんだそんな疑問から、あらためて「一切行苦」の教えを見直してみると、どうやら、この「苦」なるもの、そう単純ではなさそうですね。以下、仏教における「苦」について、お釈迦様が、本当は何を教えようとしたのか、考えてみたいと思います。

「すべては苦である」。新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアでは、「飢餓に苦しむ子どもたち」、「いじめを苦にして自殺」、「借金苦のために強盗」、「夫の暴力に苦しむ妻」など、毎日のように、「苦」の報道が紙面や画面を賑わせています。ふむふむ、確かに、一切皆苦。ただ、そんな報道を目にしたがら、「可哀そうねえ」なんてつぶやく自分だけは、「一切」から外してはいませんか。実際、「今、あなたは苦しんでいますか」と問われたら、「それほどでも」と否定する人が大半だと思います。むしろ、「私、人生を楽しんでいます」と答える人の方が多いでしょう。そんな人生を謳歌している人の耳元で、「でも、仏教では、『一切皆苦』って教えられてるのですよ」と囁けば、「なんて悲観的な教えなの、仏教は」と驚き、敬遠されかねません。そりゃそうです。「人生、楽しく、幸福に生きたい」、これが私たちの願いであり、実際、それなりの楽しさ、何となくの幸せを味わっています。なのに、それを否定されて、喜べるはずがありません。

しかし、「今の楽しさや幸福は、永遠に続くものでしょうか」と問われたらば、どうでしょう。「それなりの」楽しさ、「何となくの」幸福の危うさが、ちよつと見えてきませんか。私たちが普段感じる満足感や幸福感の正体は、肉体を含めた物質的なものが、いつまでも変わらず充足しており、また、精神的に乱れることのない安定があることだと考えられます。今、一時的に、物質的・精神的な安定を得ている人であっても、その安定が永続しないことは、薄々気づいているはず。すなわち、「それなりの」楽しさや「何となくの」幸福は、「無常性」のために、いつ崩れさるか分らぬものであり、その意味で、この幸福感は、不安と表裏一体です。よく考えたならば分かる、この幸福の儚さを、私たちは普段、なただけ見ないように、見ないようにして過ごしています。けれども、仏教が説く「諸行無常」の真相を理解し、観察してゆくならば、いやがおうでも、この真実を見ないわけにはいきません。(無常性と結びついた不安)とい



う本質こそが、「一切皆苦」の「苦」の一面です。「苦」にはまた、別の側面もあります。「諸法無我」の教えと密接に結びつく「苦」がそれです。本来、人間は、モノ・ココロの集合体(五蘊、すなわち物質・感受作用・表象作用・形成作用・認識作用の集合体)である、と仏教は説きます。「わたし」とか「自我」とかいわれる概念は、この集合体に対する錯覚(根源的無知、無明)から生まれた虚構にすぎません。「自我」が立てられれば、必然的に、自己ならざるものとして「他者」が立てられる。こうして自他の区別が立てられた結果、私たちは、自己のアイデンティティをめぐる苦しみ直面します。劣等コンプレックスに典型的に見られるように、自己と他者との適切な関係を模索する現代人は、この虚構の「自我」に由来する「苦」を日々味わっています。実際、「自分らしさ」や「本当の自分」といった単語が、キャッチコピーに頻繁に使用されるのは、それだけ「自分なるもの」の分らなさ」に悩む人が多いということでしょう。

「無我」の真理を知らず、「自我」に執着することによって生まれる苦しみは他にもあります。それは、自我意識から生まれる「所有欲」(我所)を原因とする苦しみです。もちろん、最低限の衣食住に対する所有欲は、生存に欠かすことのできないものですが、この所有欲、もともとは(自我意識)に根を張るものですから、私たちは、必要以上に所有を求めています。潜在的に、他者よりも優位に立ちたいという、自我の欲望があるために、衣服にせよ、食事にせよ、住居にせよ、今の状態に

完全に満足できないのです。衣食住に限らず、家族や恋人もまた一つの所有対象と考える人があれば、同じように所有欲が働きます。その欲望の一時的満足こそが、「幸福」と言われるものですが、他者との競争はエンドレスです。仮に、最終的な「勝ち組」となつたとしても、その境地は所有欲の終わりを意味しません。他人から羨まれるような境涯にあつてもなお、いやむしろ、そのような境涯だからこそ、欲するままにはならない、思うままにはならない、という「苦」が増えることは、秀吉をはじめとする英雄の伝記に明らかです。

このように「諸行無常」、「諸法無我」の教えから「苦」を眺めるならば、仏教が説く「苦」とは、特定の境涯の人だけに当てはまるものではなく、あらゆる人に、普遍的に妥当するものだということが分ります。仏教の教えに出会わない限り、私たちは、無明という根源的無知で曇らされた眼で自己と世界を眺めるしかありません。だから、真の世界は刻一刻と変化してやまない、流れゆく川のようなものであるのに、「自分が手にいれた幸せだけは（永遠に）続く」と誤った考え（分別）を繰り返します。また、ちょうど碁盤に黒と白の石が並んでゆくように、本来は、因果の鎖で結ばれた関係のネットワークにすぎない世界（碁盤）に対して、「私」という石を置き、さらに虚構の「他者」という石を置き、世界を実体化し、有意味化し、その所有を競うゲームをはじめることになります。このゲームに終わりはなく、自我意識と所有欲のために、叶わぬものを追い求め、結果、思うままにならぬことに

苦しむ。苦の本質とは、まさしくこの「思うままにはならないこと」にあると言つてよいでしょう。仏教では、これを「求めても得られぬ苦しみ」（「求不得苦」と名付けます。

この求不得苦は、よく知られた八苦（生苦、老苦、病苦、死苦、怨憎会苦、愛別離苦、求不得苦、五取蘊苦）の分類では七番目に挙げられ、他の苦から特別に区別される扱いはなされていません。しかし、興味深いことに、原始仏典の中には、この求不得苦を強調して教える経典が存在します。

『諦分別経』では、四苦八苦の定式ではなく、生、老、死、憂い、悲しみ、肉体的苦痛、悩み、絶望という順で苦の実相が説かれた後、これらを前提として求不得苦が次のように説かれています（原始仏典第七巻 中部経典IV、春秋社所収、勝本蓮華訳からの取意）。

片付けたらと思うから つらいのさ。



「友らよ、求めるものを得られないことも苦しみであるとは、どういうことか。友らよ、生まれること、老いること、病気になること、死ぬこと、憂い・悲しみ・苦痛・悩み・絶望を本性としてもつ生きものが、『ああ、じつに、わたしたちは生まれること、老いること、病気になること、死ぬこと、憂い・悲しみ・苦痛・悩み・絶望を本性にもたなければよいのに。わたしたちに誕生、老い、病、死、憂い・悲しみ・苦痛・悩み・絶望はやつてこなければよいのに』という欲求を起こす。しかし、これは、求めても得られるはずがない。これが、求めるものを得られないことは苦しみであるということである。」

生老病死は生き物の本性であるのに、私たちは病のない世界、老いのない世界を求めてやみません。なのに、本性に反するものは求めても得られない、とはあまりに冷酷な宣言です。しかし、苦の不可避性に対する、この積尊の言葉は、諸行無常と諸法無我の道理に対する透徹した眼差しに支えられていることを忘れてはなりません。諸行無常である以上、老いて、病に冒され、死んでゆくという必然は、どんなに避けたいと願つても避けることはできません。私たちに自我意識があり、所有欲があるために生じる、憂いや悲しみ、絶望もまた、どんなになくそうと思つても、なくすことはできません。積尊は、「一切行苦（一切皆苦）」の言葉で、世界と自己の真理である諸行無常・諸法無我が正しく理解されていないからこそ、思うままにならぬ苦を味わうのだと説かれました。逆に言えば、諸行無常と諸法無我を正しく理

解し、思うままにはならぬ人生を、「思うままにはならぬ」と正しく見極められたとき、はじめて「苦」から解放された世界が開けるのです。

護山 真也（もりやま しんや）



一九七二年長崎県生まれ。  
二〇〇一年東京大学大学院人文社会学系研究科博士課程単位取得退学。  
二〇〇一年日本学術振興会特別研究員(PD)。  
二〇〇六年ウィーン大学大学院文献学・文学研究科博士課程修了。D.D.C.  
二〇〇七年信州大学人文学部准教授

法衣・佛具

**丸東** 株式会社

〒600-8877  
京都市下京区西七条南西野町46-5  
TEL 075-315-8536  
FAX 075-315-8538  
☎ 0120-010-193  
e-mail: marutou-hoe@siren.ocn.ne.jp



ダイアローグ  
— 番外編 —

十方三世八百万に

菩薩在り神在り

〽平成十九年度禅文化学林を振り返って〽

出雲にて平成十九年の神在月のサミットを終えた神々は、それぞれの持ち場へ戻られ、世の中を良き方向へ導くべく、采配を振るわれていることだろう。

神々の出雲出向の頃、平成十九年度の禅文化学林が開催され、盛會裡に幕を閉じた。禅文化学林終了後、各地へ戻られた諸師は、いかがお過ごしでしょうか？ あの場合で熱く語り合った言葉が、曹青会員諸師なりに消化され、日々の法務檀務の現場に登場できていたら幸いと思う。

この度のテーマは、考えれば考えるほど思考の深みにはまりそうな「いま、あえて生死（いのち）をく教育与宗教の対話に学ぶ」というものであった。確かに答えの出ないテーマではあるが、曹青会員が現実的に遭遇しているであろう問題であり、現代社会に生きる以上、直面せざるを得ないテーマでもあったろう。

実際のディスカッションでは、各地より参加されている青年宗侶の方がたの苦悶、格闘、師なりの答えと実践を拝聴することができた。そこでわかかったことは、「皆、目の前に居る方が直面する問題、直面せざるをえない現実

をわが事と受けとめ、そこから眼をそらすことなく、そこに共に踏みとまり、苦痛を共有し、その苦しみをいかに減していくかについて、智慧を搾り出し、思いをめぐらせ、行動を起こしている」ということであった。要するに、葬儀・法事の読経と説教だけをサラッと終えて、一方通行的に法要を終わらせてその場を立ち去ることをせず、親しい者との死別の苦しみに喘ぐ方がたと、時間と場を共有し、話に耳を傾け、そこで遺族の心のケアをさせていただくという姿勢で臨まれている青年宗侶が多数存在したことに、大きく感銘を受けた。そのような状況では、そこに「居る」ことさえ苦痛であることとを、宗侶の方がたはご存知のはずである。死の背景にあるものが複雑であればあるほど、読経の声も震えるし、お説教などできなくなる。「読経の一言一句に、詠讚歌奉詠時の所作の一挙手一投足に、とにかく心をこめ、務めさせていただく、そうすることしかできない。」という発言があった。読経に出かける前、身支度を整え帯を締めるとき、自分の心の帯もしめる、とのこと。私自身、まさにその繰り返しである。

先日、二十四歳の若者のお甲いをした。参列者は、母親とその友人のみ。自死であった。母親が仕事を終えて家に戻ると、既に息絶えている息子の姿を発見。何が問題だったのかわからないう、どうしてこうなってしまったのかわからない。母親はパニックに陥って



いた。母親の友人がずっと付き添い、息子の死を受け入れられない母親が落ち着くのを待ち、ようやく「とにかく、お経をあげていただきましょう」と説得し、私の寺に連絡が入った。寺にみえたときの母親の姿は、今にも倒れこみそうなくらいやつれていた。初対面ということもあり、まず、言葉をかけていたら良いものか非常に悩んだ。が、読経の前にゆっくりとご事情を伺い、「息子さんが安らかでありますよう、お母様のお心にも安寧の時が訪れますよう、心をこめて読経させていただきます」おそろくそのような言葉をかけ、読経に移ったように思う。私自身、心が動揺していたため、実際のところどのような言葉をかけたのかあまり記憶が残っていない。母親のすすり泣く声を聞きながらの読経は、本当につらいものである。痛いものである。

十方三世八百万。私たちはどこで苦しみと遭遇するかわからない。苦しみの数だけ仏在り、神在り。全国津々浦々にて悩み格闘しながらも真摯に生死と向き合う曹青会員が居ることを励みに、進歩の日送りをしたいと思う。

飯島 恵道（いじま けいどう）

長野県松本生まれ。尼寺育ち。生と死、命をキーワードに、僧侶としての活動の中で、看護師資格をいかにせる現場を模索中。

139号の記事に誤りがございました。左記の通りに訂正し、お詫びいたします。

24頁4段目4行 ×脅迫感 ↓ 〇強迫感  
同 6行 ×人工マツサージ  
↓ 〇心臓マツサージ



## 寺族ということば

東京都 菅原 征子 いくこ

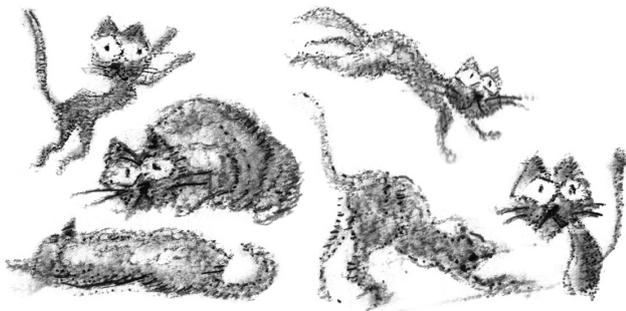
修行をしてない寺族が、宗教活動において違いがあるのは理解できますが、たとえば宗議会に、尼僧さんや寺族の役割や立場を代表する議員が、全く存在しないものもおかしなことです。

さらに、根本的な問題として曹洞宗の宗憲における寺族の定義については、本当に不愉快です。すなわち宗憲第八章、寺族、第三十二条「本宗の宗旨を信

奉し、寺院に在住する僧侶以外の者を「寺族」という。」(平成七年四月一日施行、曹洞宗宗務庁発行『曹洞宗宗制』五十五頁)というものです。寺族は、主に住職の配偶者や家族を意味し

縁があつて東京郊外の禅寺に暮らすようになって、いつしか四十年の歳月がたちました。法要や読経会・坐禅会、齋場の建設・堂門の修復などの相談や、毎月行われる役員会や世話人会、その支度等さまざまな場面で常に、住職のアシスタントとして立ち働いています。また、本堂や庫裡・境内の清掃や管理には主要な担い手となり、普段留守がちの住職に代って檀家や地域の方がたと身近に接触し、自然保護などの市民運動などにも関わってきました。こうした寺族の仕事の忙しさに、つねづね不平不満を口にしつつも、振り返ってみれば私に見合った仕事だったような気がいたします。

しかし、この間に余暇を利用してライフワークの日本宗教史研究を再開し、ジェンダー概念を学び再考するなかで、現代における仏教界の性差別に疑問をいだくようになりました。男僧さんと尼僧さんの境遇は、同じ修行していながら、道元禅師の教えに反しあまりにも不平等です。また修行をした住職と



ていると思われませんが、この表現ではほとんどの住職が結婚しているにもかかわらず、あたかも結婚していないかのようにです。住職の配偶者と家族を、まっとうに位置付けられないのでしょうか。宗派によって早い遅いはあるものの、長い日本仏教の歴史の到達点の一つが、在家仏教であることは今や明白なことです。日本で最初の眞の仏教理解者が、僧侶ではなく聖徳太子という在家の人であったことを思うべきです。我々の祖先は、なぜ長い間仏教を信仰してきたのでしょうか。死や苦しみを踏まえて人びとを、真剣に生きさせるノウハウを提示してきた仏教、伝来以来各時代に特有の、さまざまな社会の問題に対応し、変化をしつつも人びとの悲しみや苦しみに向かい合ってきました。仏教徒達は僧尼という専門家ともども、さまざまな運動を展開し今日に至っています。出家は、もちろん魅力的な生き方ですが、現代社会の諸問題を考えれば、志の高い在家仏教もよいではありませんか。

宗憲を改正し、寺族が主に住職の配偶者であることを明確にし、宗門の一員として誇りを持てるようにして欲しいと思います。それは、誇り高い宗門の一員であると共に、自分たち自身のこととして、身近な社会問題などにすっきりと取り組める根拠ともなるでしょう。

青年僧侶夫妻が、世の中への謙虚さを貫きながら、お互いに信頼しあつて寺院の運営にあたるのが、きっと仏教の真価の再生につながると信じています。

## と き た び こころの時代にこころの旅を

国内回参・海外仏跡巡拝の事なら経験豊かなビーエス観光へお申し付け下さい。

**ビーエス観光グループ**

# \* そうせいサロン

哆々和々

今年が始まった昨年五月当初は、手探り状態からのスタートでしたが、そこから段々とやりたいことが見え、少しずつかたちにできるようになりました。そして、今も一心不乱に突き進んでいます。

私たちは、新たな試みとして、この春に定期総会の地方開催を実行することに至りました。この地方開催の計画案を実行すべく、評議員の皆さまのご判断をいただきましたが、それぞれの「思い」というものは、常に一つとはならないものです。そこには賛否があり、さまざまな筋が現れます。どれもが真実であり、どの筋もないがしろにはできません。

そのさまざまな「思い」があることを、開催日まで忘れることなく、誠意を持って、計画・準備することが、多くの会員皆さまへのお応えになると信じております。全曹青も各委員会事業の歩みも、全国の会員皆さまの熱意や信頼、ご協力という三つの支えなくして成り立つことはできません。そのことを、私たちがしっかりと受け止め、お応えしていくことが我々の使命と考えます。

己を省みることが忘れずに、その「思い」を強い意志で、一つ一つ紡いでいった先には、皆さまの笑顔があることを願っております。

全国曹洞宗青年会

会長 芳村 元 悟

## 編集後記

今年度の禅文化学林を、企画から関わった立場で顧みれば、一言「アンチテーゼ」の大会だった。

島根という地の利の低さを、逆に故郷のPRのチャンスと考え、大会運営のモチベーションへと転化させたし、参加者が「ただ聴いて帰る」大会にしないためにVTRなどの視覚効果を多く取り入れるなど演出に拘り、グループワークでは仏教的な慣用語で収束させず、参加者相互でバラバラの（はずの）本音を引き出す議題設定を心がけた。そもそもグループワーク自体がメイン講師の島山氏が全日参加できないために考えた苦肉の策だったが、結果として全員参加型の大会運営に拍車をかける結果となった。

思えば島山氏が実践するシュタイナー教育自体がアンチテーゼの教育と言われ、現状への疑問や転換が底流にあるから、その意味でも首尾一貫「アンチテーゼ」の大会だった。

アンチテーゼは、それそのものでは帰結しない。安座から立ち上がるきつかけにはなつても、歩みそのものには成り得ない。しかし初動としてのアンチテーゼが、多くの仏家の発心を支えていたのではないか。釈尊や道元禅師がそうであったように。その初動に拘ったという点においては、実に「青年僧らしい」大会であった、と思う。

参加者並びに関係者各位には、改めてお礼申し上げます。

副委員長 板倉 省吾（いずも曹洞宗青年会）

現在、大会の様相を収録したDVDを作成中です。お問い合わせは、いずも曹青事務局（〒六九九一〇一〇八 島根県八束郡東出雲町出雲郷八二六 宗淵寺内 板倉宛 E-mail:honzodogs@mac.com）まで。

## 読者の声

内容が「権利」に傾きすぎ。ジェンダーについての記事は書きっぱなしで終わってるよ！

福島県盛林寺様

いつも貴重なご意見有り難うございます。おそらく「寺族のテラス」についてのご意見と拝察いたします。青年僧にも、現状の宗門に孕んでいる諸問題の一例として捉えていただきたく掲載いたしました。その問題意識を少しでも共有し、各人の意識向上に結びつくことが未来に繋がることを念頭にしております。そして、編集方針として「権利」のみに特筆していることはございません。今後は、違う角度からのご意見をお持ちの寺族様の記事も反映したいと考えております。

編集室 合掌

※その他、送付について・賛助会費について等、多数の貴重なご意見・ご感想をいただきました。今後の誌面編集と会の運営に反映するため、参考とさせていただきます。

### 〈お詫びと訂正〉

前号一三九号（平成十九年十月五日発行）にて、訂正箇所がありました。

ここにお詫びして訂正申し上げます。

・巻頭インタビュー「Person」中、四頁二段目

（誤）「不立文字 教化別伝」

（正）「不立文字 教外別伝」

「そうせい」に対するご意見・ご感想、また、発送部数に関するご要望は左記の連絡先までお願いいたします。

〇あて先

〒二七三〇八六五

千葉県船橋市夏見六二二三三三 長福寺内

そうせいサロン係

FAX (〇四七) 四三六六八〇八 河村まで

# ネットで愉しむ 禅籍サーフィン



## 収蔵品紹介

# 『禅林石庭秘伝』

前二号（一三八・一三九号）では、曹洞宗両祖に関連したものを紹介いたしましたので、今号は少々離れまして、夢窓疎石（一二七五〜一三五二）撰と伝えられる『禅林石庭秘伝』をお送りします。

駒澤大学所蔵の『禅林石庭秘伝』は、野村信治が貞享元年（一六八四年）四月に書き写したもので、一九紙の奥書からそのことが明らかです。本紙の大きさは縦32cm×963・1cm、23張からなっています。

本電子図書館版では一軸を全二十四画像に分割して掲載しております。それぞれのコマごとに分かれたサムネイルが画面上にありますから、頁から頁へ移るときに操作がしやすくなっています。画像一〇〜二〇までは作庭の図が挿入されていて、本文の背景には草木の絵が薄く描かれており、凝った作りのものとなっています。

著者・成立年代不明の作庭書『嵯峨流古法秘伝書』というものがありますが、興味深いことに応永二年（一三九五）に『禅林石庭秘伝』を写した中院康平が、同年に書写しています。両作庭書とも類似点が多くあるといえますから、異同等などを詳しく調べてみる価値があるかも知れません。

前号一三九号における柗野俊明師へのインタビューとあわせてご覧になってはいかがでしょうか。

『駒澤大学電子図書館』

URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshokan/el/index.html>



駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵

宗法衣に心をこめて

株式会社 余瀬

法衣仏具店 瀬黄

曹洞宗専門 梅花流法具指定販売店  
全国曹洞宗法衣同業会会員

〒607-8465 京都市山科区上山坂尻2-6

電話 (075)593-1255 番代表・フリーダイヤル 0120-07-1255・FAX (075)593-1146

# 曹洞宗の袈裟に学ぶ

## 第4回

### 一休宗純の大掛絡

愛知学院大学教授 川口 高 風

#### 一休の伝記

平成十九年八月三十日の新聞に、室町時代の禅僧一休宗純(一三九四―一四八二)が着用した五条袈裟(大掛絡)を復元して一般公開されるニュースが出た。カラー写真で大掛絡が写っており、それをみて私は、鎌倉・円覚寺の開山無学祖元の大掛絡を少し小さくしたものと思った。また、これによって大掛絡の掛け方や首から掛ける紐すなわち棹、マネキ(棹を動かさないように縫い合わせるもの)の様子を知ることができ、貴重なものと思い、早速所蔵されている京田辺市新里ノ内の酬恩庵(一休寺)へ行き調査することができた。

一休といえば「トンチの一休さん」で知られ、いろいろなエピソードにみちた禅僧である。小僧の一休が見事な機転によって大人たちをやっつける話など一休を主人公とした物語は江戸時代に生まれたようである。実際の一休は頂相をみると、髪はボサボサで無精ひげが生え、高僧というよりも奇僧

の感じがする。木像は頭髪、眉、ひげに一休自身の遺髪を植えこんだといわれており、やはり奇怪に思える。

一休は応永元年(一三九四)に京都で生まれた。父は後小松帝といわれ、六歳で京都・安国寺の象外禅鑑について出家した。十七歳で謙翁宗為に参じたが亡くなったため、近江堅田の禅興庵(現在、祥瑞寺)にいた華叟宗曇に参じ、ついに印可を受けた。康正二年(一四五六)には山城薪村にあつた大応国師(南浦紹明)の開いた妙勝寺を復興しており、師恩に報いる意味から酬恩庵と命名した。

ここで一休は後半の生涯をおくり、文明六年(一四七四)八十一歳で大徳寺四十七世になった時、酬恩庵から通い、応仁、文明の乱で荒廃した大徳寺の伽藍を整備した。同十三年(一四八二)には弟子の墨済に命じて自らの木像を彫刻し安置したが、十一月には発病して同月二十一日に八十八歳で示寂した。

#### 一休の大掛絡

大掛絡は、一休が日常使用していた長櫃に他の袈裟や法衣、足袋などとともに納められていた。白地と緑地の絹糸を使い、雲を描いた緞子が用いられている。田相部分の縦は四十七センチ、横は上部が五十九センチ、下部は七十九センチで、上部の左右の横はタツクが施されている。そのため女性のスカートのように下部が広がっている(図1)。



図1 復元された一休の大掛絡

外側の棹の長さは一三九センチ、幅は五二センチで、真中にマネキが

ついている。マネキは縦十五センチ、幅は五センチで、縫い合せ部分に縫い取りの様子は施されていない。内側の棹の長さは一三七センチ、幅は二五センチで、向って右側に象牙の環がついている。

一休が大掛絡を掛けていたことは『一休ばなし』や『一休関東咄』にある挿画によっても想像できる(図2)。ただし、両書とも寛文年間(一六六一―一七二)に刊行されたものであるため、一休在世時と二百年の隔たりがあり、挿画が室町期の一休の大掛絡であるとの断定はできない。しかし、『一休関東咄』の挿画は、大掛絡をかけた姿がいろいろな方向から描かれており、掛け方の特徴が明らかになる。



図2 『一休関東咄』の挿画

#### 大掛絡の掛け方

大掛絡の二種の掛け方を考えてみよう。鎌倉後期の一三〇〇年前後に描かれた建長寺開山の蘭溪道隆(一一二―一三七八)の経行像は、左肩の外側の棹



図3 蘭溪道隆の経行像(建長寺蔵)



図7 以亨得謙の経行像(萬歳寺蔵)

の上に幅の狭い内側の環のある棹が搭けられており、田相が横になっている。左肩から肘にかけては袈裟が搭けられていないため、横に搭けた大掛絡であることがわかる(図3)。したがって、天台宗の小五条や三緒袈裟と同じ搭け方である。

一休の大掛絡をこの方法で搭けてみると、外側の棹が少し余り、ダブつく感じでマネキもただ挟んでいるという状態である(図4)。

次に前から搭けてみると、内側の棹で田相部分をつるしており、外側の棹

は飾りのようである(図5)。マネキと棹は、現在の禅宗の絡子ではT字になっている。しかし、逆のT字形になつており、内側の棹が上部の折り曲げた部分に入って田相部分をつるしている(図6)。そのため座つた時は、外側の棹が両肩の外へ出ている。戦国時代の武将が入道した肖像画をみると、大掛絡を前に搭けた姿が多くある。まさしく一休の大掛絡と同じものとみてもよいのではなからうか。

酬恩庵には、一休が贊を記した織田宝蔵祐居士の肖像画がある。居士であ

るが、法衣を着て前から掛絡を搭けた姿である。一休の大掛絡を搭けた姿と同じスタイルといつてもよい。

室町前期に五山文学の興隆に貢献した以亨得謙(？—一四〇二)の経行像も前から搭けている(図7)。以亨は中国にわたって臨済禅を修行した人で帰国後、建長寺や円覚寺などに住して詩会を開き、中国禅林文化の移入に努めた。後に九州へ下り、肥後に国泰寺、佐賀に萬歳寺を創建している。

この経行像は、以亨が右手に拄杖をとり、右足のかかとをあげて松樹

前の大掛絡を搭けた姿である。

以亨の大掛絡は内側の棹の幅がかなり狭くなっている。しかし、それであるとしており、外側の棹は肩より少し下がって飾りになっている。

#### 大掛絡の特徴

以上、一休の大掛絡が復元されて明らかになったことは、一休以前の搭け方が横に搭ける方法と前に搭ける方法があった。しかし、一休の頃は前から搭けるのが中心であったものと思われる。大掛絡は外側の棹より幅の狭い内側の棹でつるしているため、外側の棹は飾りであったともいえるのである。

マネキは現在の掛絡と上下が反対につけられている。しかも縫い取りはない。現在の縫い取りは、曹洞宗が折れ松葉、臨済宗は三角、黄檗宗は星印、浄土宗は米印で、宗派によって異なり、その縫い取りをみれば、どの宗派のものか一目瞭然となる。一休の時代より後に棹やマネキ、縫い取りに変化が生じたのである。それが具体的にいつ頃かは今後の研究に俟ちたい。



図4 横に搭けた姿



図5 前から搭けた姿



図6 背後にあるマネキ

第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会

「地域の縁、アジアの縁  
— 共生をめざして —」に参加して



パシフィコ横浜にて、超宗派の僧侶が一つとなった



慈愛からの対話という、偉大なるテーマを解りやすく講じられた奈良康明先生

去る平成十九年十一月十九日(月)・二十日(火)の両日にわたり、神奈川県横浜市パシフィコ横浜において、第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会が、全日本仏教青年会会員僧侶約二百人が参集し、盛大に開催されました。十九日は、パシフィコ横浜メインホールにおいて、午後一時より一時三十分まで開会式典が行われ、その後午後一時四十分から午後二時三十分まで、「草の根的対話の提唱」と題して、駒澤大学前総長奈良康明先生から、帝釈天の網の譬喩を用い、個々人と全体との関わりが、共生のはたらきにとつ

第40回全日本仏教徒会議 神奈川大会日程

【第1日目】日時：平成19年11月19日(月) 12時受付開始  
会場：パシフィコ横浜

- 開会式 (メインホール) 13:00~13:30
  - 13:00 開会
  - ◇ 開会の辞 倉田隆常師 (大会副会長)
  - ◇ 法要 (三歸依文) 安原 晃師 (全日本仏教会理事長)
  - ◇ 挨拶 安原 晃師 (全日本仏教会理事長)
  - 横山敏明師 (大会会長)
  - ◇ 来賓祝辞・来賓紹介
  - ◇ 日程説明 井澤孝一師 (大会事務局長)
  - ◇ 閉会の辞 藤井良晃師 (大会副会長)
  - (休 憩) 13:30~13:40
- 基調講演 (メインホール) 13:40~14:30
  - 駒澤大学前総長 奈良康明先生
  - 演題「草の根的対話の提唱」
  - (休 憩) 14:30~14:50
- 加盟団体代表者会議 (501・502) 14:50~16:20
  - テーマ「NEXT50 地域の縁・アジアの縁 そして世界へ」
  - サブテーマ ~全一仏教運動の具現化に向けて~
- 分科会 14:50~16:20
  - ◇ 第1分科会 (301)
    - テーマ「アジアの平和と仏教徒の役割」
    - ~日本仏教青年の可能性を求めて~
  - ◇ 第2分科会 (302)
    - テーマ「少子高齢化社会と寺院のあり方」
  - ◇ 第3分科会 (303)
    - テーマ「現代社会における仏教葬儀のあり方」
    - ~本来の機能を失いつつある現代の仏教葬儀~
  - ◇ 第4分科会 (304)
    - テーマ「生命倫理と仏教徒に問われること」
    - ~人の一生が始まる瞬間と死ぬ瞬間はどの時点だろうか~
  - (休 憩) 16:20~16:50

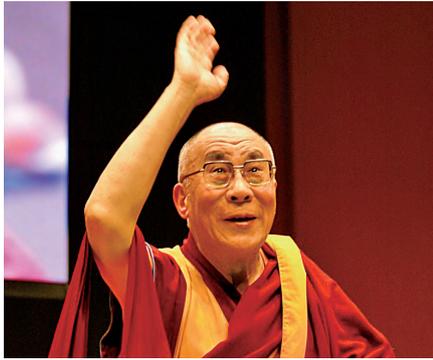
■全体報告会・各分科会及び加盟団体代表者会議の報告 (メインホール)  
開会 16:50~ 閉会 17:30~

■交流懇親会  
開 宴 18:30 挨拶 乾杯発声  
中締め 20:30 解散

【第2日目】日時：平成19年11月20日(火) 午前8時受付  
会場：パシフィコ横浜 国立大ホール

- 記念式典及び法要 9:00~10:00
  - 9:00 開会
  - ◇ 開会の辞 本間孝康師 (大会実行委員長)
  - ◇ 法要 仏事 (導師大会会長・式衆曹洞宗関係者及び神奈川県仏教会役員、高野山真言宗神奈川雅楽部の演奏にて入退場) 雅楽 (舞楽、演奏・舞人：高野山真言宗神奈川雅楽部) 大道晃仙祝下 (全日本仏教会会長・大会総裁)
  - ◇ 挨拶
  - ◇ 大会宣言
  - ◇ 来賓祝辞
  - ◇ 来賓紹介
  - ◇ 祝電披露
  - (休 憩) 10:00~10:20
- 特別記念講演 10:20~12:20 (質疑応答30分)
  - 講 師 ダライ・ラマ14世法王祝下
  - 演 題 「信ずる心と平和」
  - ◇ 12:25 閉会の辞 和田大雅師 (大会実行副委員長)
  - 12:30 閉会

- 特別展 (2日間開催)
  - ◇ 釈尊生誕地『ルンビニー園』復興事業の歩みパネル展
  - ◇ 第41回現代名僧墨蹟展 (展示即売)



現在72歳とは思えないほどハツラツとした笑顔で、5,000人の聴衆に法悦をもたらした

ては大きなヒントとして、自他の繋がりからの慈悲心が重要とし、他者にしかなるべき関心を示していく実践でなければならぬとされました。その実践を訓練とするならば慈悲心が増強され、熟してゆくとされ、その慈悲心からの各宗教・宗派間との対話が、これからの共生のはたらしに、とても重要であるとの基調講演が行われました。その後、午後二時五十分から午後四時二十分まで、第一分科会「アジアの平和と仏教徒の役割」、第二分科会「少子高齢化社会と寺院のあり方」、第三分科会「現代社会における仏教葬儀のあり方」、第四分科会「生命倫理と仏教徒に問われること」と四分科会それぞれテーマに分かれ、パネリストを三名とし、座長と提言者を交え参加者が聴講する中、活発な議論が行われました。二十日は、会場をパシフィコ横浜国

立大ホールに移り、午前九時から十時まで記念式典が行われ、導師を大会会長横山敏明(西有寺堂頭)老師として特別記念法要と続いて、高野山真言宗神奈川雅楽部の演奏と舞が行われました。その後、全日本仏教会会長・大会総裁、大道晃仙下からのご挨拶が述べられました。午前十時二十分から午後十二時二十分まで、ダライ・ラマ十四世法王陛下による「信ずる心と平和」をテーマとした特別記念講演が五千人の参加者のもと行われました。講演後、午後十二時三十分から閉会式が行われ、盛会裡に第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会が終了いたしました。



現実的な意見を議論され白熱した第3分科会

## 参加者感想文

特別記念講演「信ずる心と平和」に参加して

ダライ・ラマ法王は、すべての人びとに、慈悲のこころに基づく菩提心を育むことの大切さ、そして縁起の教えを充分理解し実践することの大切さを説かれた。テーマは「信ずる心と平和」であったが、さまざまな社会問題、心の問題についても、問題解決への糸口は無関心・無知を分析し改善していく努力であり、過去を反省し、正しい方法、正しい目覚めにより、自分の行動を変革することによって平和の実現が可能であり、個人の行動に委ねられているということとを改めて、認識させられた。すべての問題は一人称であるということ。そこで私が今何をなすべきか？

まず第一歩を踏み出せるかどうか。さまざまな社会問題に対し、仏教の縁起という概念が、関係性の改善を目指すことよって、現代にふさわしいものの見方に転じるよう、私たちは大いなる慈悲心をもって小さな行動でも、常に一步を踏み出さなければならぬし、慈悲が人生において欠かすことのできないものであるという強い信念から、無関心を脱して、あらゆる問題改善のため未来に向かつてよき種をまき続けていかなければならないと思う。宗教者であるならば、行動において、慈悲心を体現すべきだと強く感じた。

第十七期副会長 長井 峰宗

「第一分科会『アジアの平和と仏教徒の役割』」日本仏教青年の可能性を求めて」に参加して

合理的で、快適な生活を求めて科学技術は著しく発展した。技術が進歩し、物が豊かになれば幸せになれると信じてきた。しかし、世界有数の経済大国となった日本でも「幸せ」を実感している人は少ないように思う。日本の自殺者数は平成十年から毎年三万人を超え、世界でもトップレベルの自殺大国となつてしまつている。現在の日本の状況を考えると、六十年以上、国内において戦争がないとはいえ、「平和」とは言いがたい。第一分科会で交わされた日本の現状についての議論が特に印象的だった。

この分科会に参加して「粹(いき)人情の表裏に精通すること」という言葉を思い出した。近代化は「粹」を排除し、合理性・利便性を追求することなのではないかと感じた。近代化の弊害に気づき、「粹」を取り戻そうとする流れにある今、僧侶の可能性は大きい。ただ、大切なことは、単なる可能性に終わらせてはいけないということ。「粹」な心を磨き、日々精進していきたい。

第十七期副会長 中村 嘉秀

# 花まつりキャンペーン

～真心のたねをまきましよう～

ありがとう



パッケージ裏側  
プラスチック包装紙に  
詰めてお届け



表紙デザイン



三仏忌の説明、花の種、  
菩提樹の葉脈、甘茶  
ティーバッグ

- **内容**  
三仏忌の説明文を記載した新パッケージに、本物のインドボダイジュを加工した葉脈、花の種、甘茶ティーバッグを詰めてご送付いたします。
- **申し込み数量と費用**  
一部一三〇円  
※五〇部単位でお申し込みください
- **申し込み方法**  
郵送・FAX・E・MAILいずれかの方法にてお申し込みください。
- **申し込み先**  
〒088-1514  
北海道厚岸郡浜中町  
霧多布東4条1丁目33 祥雲寺内  
加藤勤也（総務委員）宛  
【FAX】0153-621-2733  
【E・MAIL】hana@sousei.gr.jp  
または全曹青HP申し込みフォームより
- **申し込み期限**  
平成二十年三月末日  
※在庫が無くなり次第頒布を終了いたします。
- **発送予定**  
平成二十年二月上旬頃より順次
- **お届け方法**  
着払いにてお届けします。

## 花まつりキャンペーン申込書

宗務所名	寺籍番号	寺院名	
名前	電話番号	申込数	部
ご住所	(〒 - )		

発行所 全国曹洞宗青年会 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内/発行責任者 芳村元悟 編集責任者 河村康仁 編集委員 青野貴芳・板倉智吾・志保保見道一・松岡広也・奥根和明・吉田義弘・大室英暁・藤木総宣・大村則道・狩野晃一・古山健一・山口高裕  
本誌編集部並びに発送部数へのお問い合わせ先 〒273-0865 千葉県船橋市夏見6-23-3 長福寺内 FAX (047) 4366808 河村/全曹青ホームページ <http://www.sousei.gr.jp> /印刷所 株式会社 中央デザイン/定価 二百円